

様式（第5関係）

## 会 議 録

会議の名称	多摩六都科学館組合緑地等保全懇談会（第3回）
開催日時	平成26年6月11日(水) 午前10時00分から午後12時00分まで
開催場所	多摩六都科学館2階201会議室
出席者	委員：池田 干城、楠本 大、佐藤 留美、須田 孫七、永原 建夫、原 朋子、町田 三郎（五十音順・敬称略） 参加者：工藤 奈津美（敬称略） 事務局：坂口事務局長、神田管理課長、寺島
議 題	1 開会のあいさつ（事務局長） 2 前回会議録の確認 3 駐車場整備事業について 4 緑地の整備方針について 5 その他
会議資料	資料1 多摩六都科学館組合緑地等保全懇談会（第2回）会議録 資料2 駐車場整備に係る調査・設備業務の実施状況 資料3 多摩六都科学館の緑地の整備方針（案）  参考1 科学館全体の緑地概要図（植栽配置図（高木）竣工図 平成5年） 参考2 雑木林樹木状況図（樹木マップ 平成26年） 参考3 駐車場用地樹木状況図（土地境界図に基づく樹木名等一覧表 平成25年） 参考4 駐車場・雑木林樹木状況図表（樹木調査業務の速報 平成26年） 参考5 ホームページの公表の状況
会議内容	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
発言者名	発言内容  (別紙 会議内容の要点 参照)

◎会議内容の要点

議題1 省略

議題2 会議録の確認。意見、質問等特になし。

議題3 駐車場整備に係る調査・設計業務については、昭和株式会社と契約し、契約期間は5月16日～9月30日までとする。進捗状況としては、樹木調査は現時点でほぼ完了している。基本設計は7月上旬にあがる予定。この段階で委員会の意見が基本設計に織り込まれる。実施設計は7月末におおよそ固まる予定。現在の予定では8月中にほぼ設計業務は終了し、9月には工事の契約・着工をする予定。

議題4 緑地の整備方針は以下の5つの案がある。

- 1) 科学館の緑化方針を新たに策定する
- 2) 利用者及び近隣への安全を確保しつつ、雑木林の健全な育成と生育環境の確保を図る
- 3) 市民の樹木里親制度を導入する
- 4) 車路（進入路）と雑木林の境界を設ける
- 5) 駐車場全体を緑化する

これらの案について意見交換を行う。尚これらの意見に基づき、事務局で整備方針を修正し、第2案を作成し、6月18日までに各委員に電子メールで送付する。6月25日までにご意見の返信をお願いする。これらの案に対して出た意見は以下のとおりである。

・今の雑木の部分を雑木として残し、全てを雑木にするのではなく色々な表情をもつ武蔵野の自然というのは良い考えだと思う。

・総論には賛成だが、各論には問題がある。武蔵野の自然を具体化するのは難しい。いつの武蔵野か、学習の意味は何を指すのか、どの部分の武蔵野にするのか、どこに目標を置くのかが難しい。保全とのバランスをどうとっていくのか。また多摩六都科学館の敷地は広いようで狭い。面積的な問題を考えなければいけない。

・武蔵野の自然としてクヌギ・コナラを植えるとする、これらは自然の樹木ではない。薪や炭を利用する人間の文化を伝えようとする際にはよいとは思いますが、生態系を教育したいのであれば考えなければならない。

・武蔵野の自然をいつの自然と捉えるかというのは、この狭い敷地では遠

大なテーマすぎる。「観察ができる」という点に集約していったほうが良いのではないか。

・武蔵野学習広場にしたい。子ども達の学習の場としての雑木林にしたい。歩きながら見ることができる場所が良い。コナラ・クヌギを主体とした雑木林はこの辺りにも沢山あるので、他にない雑木林（ざつぼくりん）を作りたい。

・今まで科学館はこの雑木林で「いきもの同士の関わり」を見せてきた。スペースは大きくないが、ビオトープとして鳥や虫、動物たちが集まれる場になっていたことを考えると、ある程度は残すべきではないか。西原自然公園とは別の方向性にしたい。樹木が主体というよりはいきものが主体になれる林を目指したい。

・クヌギ・コナラは2年あけず、すぐに植えておいた方がよいと思う。2年空けてしまうと色々な草や木が生えて雑木林（ざつぼくりん）が出来上がってしまう可能性があるため。

・木に名前をつけて植えてもらおうと、何かあった時に伐れないので管理が難しい。

・ある程度の管理は必要だが、あまり手入れをしすぎた林になると管理が心配である。季節感がわかるような、観察ができる庭が良いのではないか。

・雑木（ざつぼく）でもよそから持ってきた木は植えないなど線引きをしておかないと、管理が大変になる。

・多摩六都だけでなく、西原・東大も仲間に入れて一緒に考えるべきである。管理されたビオトープこそ、今の雑木林（ざつぼくりん）である。何を植えるかについては、好きな生き物の好むものを各々植えようとするのではなく、もっと上からの目線で線引きして造園をするべきではないか。

・木を伐ってすぐに何かを植えた方が林の再生として納得してもらえるが2年も放っておくと問題になりかねない。しっかり説明を行うべきである。

・その後10年20年経ってきたら、場所を5個ほどに区切って、5サイクルくらい作って手入れをしていったほうがよいのではないか。

・皆伐には近いが、一部大切なものは残すやり方もあると思う。カフェの近くの木は上だけ少し切って残し、入口の近くのケヤキは切る、等。

・ゾーニングしてみてはどうか。Aゾーンは残す場所、Bゾーンは伐採する場所、Cは鳥が集まる場所、Dは蝶々が集まる場所等。個人的には水の流れが欲しい。

◎武蔵野の自然と言ったときに、武蔵野にもともとあった木や生物が共生する雑木林（ざつぼくりん）を目指す方向で一致した。またゾーニングを

検討することとなった。

- ・ 雑木林も 1 階建て・ 2 階建て・ 3 階建てでエレベーター・エスカレーターがついているのが望ましい。
- ・ 森林の 4 段構想をこのスペースで行うのは難しいのではないかと。人工的に管理して公園化・庭園化したほうが楽なのではないかと。
- ・ 一本の木でも 1 階・ 2 階・ 3 階がある。選定する樹種、管理が問題。
- ・ 外来種は植えず、自然に任せる。
- ・ 植えてから 5～6 年が一番虫や生物が好む木になる。それまで我慢しなければならないが、1・2 年は草地を楽しみ、3・4 年は中間の緑を楽しむ。6・7 年になると高木ということでのよいのではないかと。
- ・ この機会に経年変化を見ていくのも良い。
- ・ あまり囲いをつくるとごみが捨てられてしまうので、自然な、おおげさではないくらいの囲いの方がむしろ好ましい。
- ・ ベビーカーと車椅子の方のために雑木林の歩道を考えなくてはいけないことが今後の課題の一つ。
- ・ 休憩室の前に人通りが多いと落ち着かないので、興味のある方だけ通れるような木道にしてほしい。車道側に通り道を作った方が良いのではないかと。

◎館庭のテーマとしては「武蔵野の自然」であり、雑木（ざつぼく）・ゾーニングを考えていく。環境を考え、色々な樹種が見られる武蔵野の学びの森を目指していくということになった。ここに草地・水辺があれば理想的。

- ・ 駐車場は環境と調和した緑の空間をテーマとし、地を這うような植物を使い、遠くからみたときに緑が見える駐車場にしたい。
- ・ 駐車場はバッタ・蝶・ムクドリなどの庭になる。周りを田んぼで囲えばバッタや他の虫も生息できるスペースとなるのではないかと。オーナー制度を行うのであれば、西側の館庭にしてはどうか。

◎方針①・②については特に異論なし。③の里親制度（オーナー制度）については、もっとよい方法を検討していくことにしたい。④の車道と雑木林の境界を設ける話については、これ自体は必要であり、方法等は今後の検討課題である。⑤は環境と調和した緑の空間をテーマとした駐車場とする。

- ・ 竹は目録にないがある程度残したほうが良いのではないかと。
- ・ コナラは 3 年経っても掘り起こせるがクヌギは掘り起こせないなので、もし使うのであれば、早急に手をうつべきではないかと。

	議題5 実施設計案を固める前にもう一度委員会を開催する。日程は7月8日以降～7月中旬の予定。
--	--